

燃え広まれ反戦の炎、起ちあまれ大学自治擁護のために！

ヘルメット 棍棒戦術 学内での一切の暴力を拒否し 〈政策シリーズNo5〉 グラスサーブルに根拠いた大衆的運動の再生を！

学園から一切の暴力を排し、自治会の民主的運動を確立しよう！

先日、同志社大、立命大でマンド、フロント等な暴力事件を引き起した。最近とみに学内で暴力が広まっている。市大でも四月には中執会議に於いてさえ「乱斗」なされた。「でらこる」、「看板を隠して」、「個人テロル」な三派系のみならず、統一会議（主流派）によってもなされた。これらは大学自治を内部ならはり崩すものである。自治会内部の意見の相違は暴力によつては克服されない。徹底した討論を通じ、一致点を成す。行動の統一を實現することによつてのみ自治会の民主的運動と強大な力の発揮を保障されるのだ。

活動家のみならず政治主義を排し、グラス、サークル学友に支えられた自治会活動の多面的展開を！

日本学生運動の力強さの最大の根拠は、全加盟制自治会が存在しているところにある。このことは当然、広範な学友の参加しつる課題と行動の設定、充分な説得と納得の積み重ねな必要の条件となるし、多様な活動をも包括することな必要である。しかし、三派系、統一会議（主流派）諸君の如くは分学内の力をくみつくしていはいない時点での度重なる現地斗争、条件無視の「四月史駆スト」は「安眠を死ぬ気でやるのだ」から引き出され、自治会の大衆性を破壊している。われわれは、昨年11月の学生大会、12月自民党市大介入に反対して立ち上った一千名のカ強い平和と大学自治を守る力を確信している。

ヘルメット・棍棒戦術、現地斗争主義を拒否し、大衆的民主的学内学生運動を再建しよう！

相次ぐ平和と民主主義、大学自治への攻撃に対し広範な学友・教員が立ち上りつつある。だが三派系によるヘルメット・棍棒戦術、現地斗争主義のそとしてそれに著しく接近し始めている統一会議（主流派）は、一部の活動家のみ参加に運動の広がりやを減少化し、力の無用な弾圧を招き、客観的には政府の反動政策の貫徹を訴す結果をもたらしている。反対に、規律のこれら整然たる、広範な教員・学生の大衆的な権力をとりまく時、政府は恐怖し、政策を転換せざるをえないのだ！

「学部区」

統一会議
〈民学同派〉